

平成 29 年度学校評価(一学期 ・ 中間評価)

学校名 大分県立日田高等学校定時制

前年度評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ◎授業改善としてICT機器の活用を重点項目に掲げ、機器の整備といったハード面から、活用する側のスキルアップのための研修といったソフト面まで充実を図った。 ◎各種行事の精選を行うとともに、多様な定時制ならではの拘りのある講演会等を企画し、行事出席率が7割を超えることができた。行事を通じて生徒の心理的成長を促した。 ◎相談支援体制の構築について、地域の外部機関と連携を図り、合同ケース会議まで持つことができたのは来年度に繋がる成果であった。 ◎学校からの情報発信として、学校HP・学校だよりを昨年以上に充実させるとともに緊急時対応として39メールの導入も行った。
------------	---

学校教育目標	中期目標	重点目標
「剛健 積極 明朗」の校訓のもと、誇り高く、心豊かで、たくましい人間を育成する	社会的・職業的自立の基盤となる体力・知識・豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的自立をめざした教養教育・キャリア教育の充実 ・特別活動や行事の活性化による想像力、協働力、忍耐力の育成 ・自己存在感の確立と心身の健康づくり

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL	検証結果(自己評価)		学校関係者評価	
					評価	重点的取組・取組指標の実践 今後の改善策		
社会的自立をめざした教養教育・キャリア教育の充実	1)キャリア教育における満足度75% ①ICTを活用した学ぶことへの興味・関心を高める授業への改善 ②学ぶ意欲の喚起と、職業観・勤労観の醸成	○生徒の授業意識向上を目指し、授業改善に向け、各研究会等への参加やICT機器活用・ユニバーサルデザイン等の研修を行い、スキルアップを図る。さらに互見授業や研究授業を実施し、授業の成果や課題について教員全体で議論を重ねていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業改善スクールプラン・マイプラン」の見直し、進捗状況の定期的な検証・成果と課題の確認を学期毎に職員間で実施する。・授業アンケート実施。(学期毎) ・各種研修の実施(ICT活用研修・ユニバーサルデザイン研修等)(随時) ・各研修会への参加(1人3回以上) ・ICT機器の活用推進 ・教科横断型授業の取り組み ・相互授業(1・2学期)、研究授業(随時)の実施 ・学校生活アンケート・キャリア教育アンケートの実施(学期毎) 	PL 教務主任 SL 進路主任	3	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に向けて5月にユニバーサルデザイン研修会、6月、8月にICT機器授業活用研修会を実施し、各自で実践できる取り組みについて研修を行った。 ・観点別評価研修については、1学期の評価や授業をもとに定時制での評価について8月に研修を実施した。 ・1学期末に互見授業を実施して、教科の枠を超えた授業観察を行った。2学期にも実施し、その結果を受けて、授業改善に向けた研修を行う予定である。 ・学校生活アンケート・キャリア教育アンケートについては4月、10月に実施。今後も定期的に行う。 ・1学期出席率84.84%(昨年度80.02%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期以降、各種研修をふまえて研究授業等を実施し、学校全体として授業改善に向けて統一した取り組みを検討する。 ・各教科研修の環流報告を実施する。 ・年間を通して2回の互見授業週間を設けており、授業見学後は授業者との振り返り時間を確保する。校内全体でも研修を行う。 ・アンケート結果について4月から10月に向けて生徒の意識は数値的には向上している。さらに課題や改善点を共有し検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全日制と定時制は別物。定時制は学びをやり直すところで、小さな集団から社会に向けての階段を上がる場所である、その中で出席率が84%という数字は高く評価できる。
		○教科、特別活動をはじめあらゆる教育活動を通じて、人間関係形成力、自己理解、課題対応能力、健全な職業観・労働観を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期に1回以上の進路講演会の実施 ・キャリア教育の観点から、職業を意識した講演に拘らず、社会貢献への意識を高める講演や生徒参加型の内容などにより、定職率向上に繋げる ・進路達成に必要な基礎学力の定着と履歴書書きなどを国語科と連携し、HRAなどでの実施 ・ハローワークとの密な連携 ・進路希望に応じた取り組み計画の策定 	PL 進路主任 SL 各HR担任	3	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会Iは豪雨のため、日を改めることとなり、予定通り実施できなかった(11月29日(水)実施予定)。 ・基礎学力の定着については授業改善を通じて各教科実施していただいている。 ・ハローワークとの密な連携はできている。ハローワーク日田を訪ね、来春卒業する生徒一人ひとりをイメージした相談を行った。 ・履歴書等の説明・指導については、HRAでは時間的に厳しく実施できなかったが、国語の教科内に実施できた(3・4年、表現活動の単元の学習の際)。 ・来春卒業予定者6名中3名内定又は合格。(進学2名、就職1名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、進路講演会Iが実施できなかったのは甚大な災害のため仕方がないと感じている。 ・今後も担任と連携し、卒業予定者の希望進路決定について引き続き粘り強く力を尽くしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率84%という数字で、自分の将来について真面目に考えていることが分かる。履歴書の書き方、模擬面接、面接に望ましい服装など就職・進学を立体化してイメージを持たせることが大切である。 ・進路に関して、講演会をはじめ、面接・履歴書等の書き方・服装・頭髪の件など実際に目に見せてしっかりと教えて欲しい。過去に知らずに履歴書に青ペンで書いたことで不合格になってしまった生徒もいた。
		○各種講演会の目的・意義から生徒へのメッセージを明確にし、ふり返りを行うことにより、生徒が学んで欲しい資質の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの時間を確保するため、講習会計画の際にふり返りも含んだ形で時間設定をする。 ・アンケート記入時に、生徒と内容についての意見交換を行う。 	PL 各HR担任 SL 進路主任	3	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会や講習会は、4年生ともなれば同じテーマで毎年のものであるが、新たな情報を知りたがり良い機会となっている。(4年) ・各種講演会後のアンケート記入はできていないが今後の参考になるような回答が少ない。文章で回答することができていない。振り返りの時間設定が行われていれば担任からコメントをするように心掛けている。(3年) ・アンケートを書きながら少し話せたが、後日アンケートをクラスで集約したペーパーをつけてファイルに綴じ、他の人の意見・感想を共有しようとした。その時間が十分取れないことが難点である。(2年) ・振り返りの時間は以前より確保できた。アンケート記入時の、生徒と内容についての意見交換はできていない。(1年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、講演会後、教室で講演会の内容について生徒と話をしてその機会を活かしていく。 ・講演会後できるだけ近い日のSHRや授業の最初5分間をそれに充て、共感したり、新たに学んだりする機会にしたい。 ・今後も各種講演会後の振り返りの時間を確保していく。アンケートの集約を次回に活用していることを生徒の示すことでアンケート記入の取り組みが積極的になるのではないかと期待している。 ・講演会後のHRA時に、生徒と内容についての意見交換を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して欲しい。
特別活動や行事の活性化による想像力、協働力、忍耐力の育成	2)特別活動・学校行事への参加率及び満足度70%以上 ①行事への主体的な参加による一体感・達成感の享受 ②自分と他者の可能性を大切に、励まし努力しあえる生徒の育成	○あいさつを通してコミュニケーション能力を向上させ、自分と他者を大切に、励まし努力しあえる生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・いのちの講演会(年1回)、人権標語(全学年)、人権教員研修(年1回)の実施。 ・あいさつ月間(4月・9月・1月)を設け、挨拶プラス1(挨拶をしたときに何か1つ生徒に声をかける。)の実施。 ・「自分からあいさつする」生徒を増やす。アンケート調査により割合を確認する。 ・教師の即座の肯定的な評価や感想、心が温かくなる反応(良いコミュニケーションの見本として) 	PL 人権教育主任 SL 生徒指導主任	3	<ul style="list-style-type: none"> ・人権標語(7月)、人権教員研修(8月)・いのちの講演会(10月)、を予定通り実施できた。 ・あいさつ月間を4月と9月に設け実施し、挨拶プラス1を意識した生徒への声をかけを続けている。 ・7月に実施したアンケート調査では、自ら挨拶をする生徒が50%・挨拶をされたら挨拶を返す生徒が79%でほぼ昨年度と同じ結果であった。また、家族で挨拶を交わす生徒は54%であり、自ら挨拶をする生徒との割合とほぼ同じであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分からあいさつをする生徒は50%と少ないため、職員側からの挨拶プラス1を引き続き積極的に進めてもらう。 ・行事等を予定通りに実施して行く中で、自分と他者を大切に、励ましあえる気持ちを持たせる。 ・2学期末に2回目のアンケート調査を実施し、状況を確認する。 ・各クラスのSHRで『1月のあいさつ月間』について生徒に呼びかけてもらい、あいさつをしやすい環境づくりを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつに消極的な生徒こそ無理強いすることなく「あいさつしたい!」という方向に気持ちを向かわせる様、学校→家庭の連携を図りたい。
		○行事などを通して集団生活でのマナーやルールを守る態度や規範意識を醸成し、自分と他者の可能性を大切に、安心・安全な学習環境づくりを図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・学校生活アンケート(年2回)・薬物乱用防止教室(年1回)、交通安全教室(年1回)、バイク・自動車免許取得者集会(年2回)、避難訓練(年2回)の実施。 ・校舎内見回り指導の改善と実施。 	PL 生徒指導主任 SL 総務主任	3	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ、学校生活アンケートを7月に実施し、交通安全教室(5月・出席率70%)、薬物乱用防止教室(7月・出席率76%)、1学期避難訓練(7月・出席率71%)、ネットトラブル防止教室(10月・出席率72%)も7割を超える出席率となり、行事はほぼ予定通りに実施することができた。 ・夏休みに校舎内外の見回り指導の改善を行い、11月より実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室をはじめ各行事の出席率70%を踏まえ、今後も継続してポスターの掲示や積極的な生徒への参加呼びかけを行い、行事に参加しやすい環境づくりを行う。 ・校舎内外の見回り指導の改善を図り、11月より実施している。今後、その実施状況を確認しつつ年度末に反省を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して欲しい。

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL	検証結果(自己評価)			学校関係者評価
					評価	重点的取組・取組指標の実践	今後の改善策	
特別活動や行事の活性化による想像力、協働力、忍耐力の育成	2) 特別活動・学校行事への参加率及び満足度70%以上 ① 行事への主体的な参加による一体感・達成感の享受 ② 自分と他者の可能性を大切にして、励まし努力しあえる生徒の育成	○各種行事において生徒が主体的に参加するように生徒会各種委員会の活動を活性化させ、学校への所属感や連帯感を高める。(企画・協力・挑戦・達成感・充実感・所属感・連帯感の涵養)	・新入生歓迎会(4月)、各種委員会、校内生活体験発表大会、県生活体験発表大会、体育祭、クラスマッチ(学期に1回)、予餞会、 ・清掃活動(年3回)、バス遠足(年1回)、芸術鑑賞(年1回)、教育振興会レクレーション(1回)	PL 特活主任 SL HR主任	3	・生徒会が、体育祭やバス遠足の車内ゲームをはじめ、企画運営などの機会が多く、主体的で積極的な取り組みができています。 ・バス遠足は、昨年の食育実習の繋がりが、蒲江の海で船に乗り筏見学や釣りを体験した。大自然に触れ今までにない生徒の意欲な活動ができた。 (満足度・・・体育祭89%、校内生活体験発表会85%、県生活体験発表大会78%、バス遠足88%)	・生徒会を中心に企画・運営する機会を増やしていきたい。 ・バス遠足の研修場所については、日常生活やネット社会では体験することのない活動内容を考える。 ・生徒の特性を生かしたり、感性を磨く体験ができる行事内容にしていきたい。	・生徒が主体となり、他者と関わる中で協調性や我慢を学ぶ良い機会である。積極的に自分を表現する生徒あり、緑の下の力持ちに徹する生徒あり、それぞれのポジションを一生懸命やりきったみんなに拍手を送りたい。 ・体育祭で自分をしっかり出している生徒や自分を出せない生徒でもそれぞれが色々なことをやって目を輝かせている姿にとっても感動した。
自己存在感の確立と心身の健康づくり	3) 学校生活における満足度75% ① 自尊意識の向上と自立心・自律心の養成 ② 望ましい食生活への改善と食育指導の充実	○和気藹々とした雰囲気の中で適度に、心地良く汗をかく小さな体験を積み重ねることで、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を涵養する。	・定通県体、全国定通体育大会、フィットネスウィーク(定通県体前)、新体カテスト(年2回)、フィットネスジムインストラクター講座(年1回)、ボウリング大会(年1回)、補強運動(体育毎時間) ・新体カテストにおける記録の向上60%以上	PL 特活主任 SL 総務主任	3	・秋の部活動では、大会に向け必死だった定通県体前とは違い、得意競技だけではなく、新たな競技に挑戦するなどのびのびと楽しく活動に励む機会となった。 ・2回目(11月)の新体カテストでは、参加した生徒22名中19名が1回目(5月)の記録を更新した。(86%) ・平素の体育授業でも、各自が自己と向き合いを意識した活動に繋がっている。	・部活動ウィークの期間を増やしてほしいという生徒の要望が半数以上。一校一実践の取り組みから、2学期に秋の部活動期間を設定。来年度は、定通県体前や秋の活動日やを増やすことも検討したい。 ・補強運動の点数を明確化したことで、実施率は改善されたので、維持していきたい。	・今後も継続して欲しい。
		○コミュニケーション能力を高め、人と関わる技能を身につけさせる。	・グループエンカウンターを全学年実施(年1回以上) ・人間関係づくりに関するグループアプローチの職員研修を実施(年1回)	PL 教育相談主任 SL 保健主任	3	・グループエンカウンターに関する職員研修を5月に実施した。関係する職員全員が参加し、有意義な研修となった。 ・6月のHRAでグループエンカウンターを全学年で実施した。クラスの実態に合わせて、各担任が活動内容を選んで行うなどの工夫が見られた。	・教育相談に関する職員研修を継続して実施していく方向だが、研修内容がグループエンカウンターばかりになっていたため、今後は研修内容の充実を図ってきたい。 ・年間を通してHRAの時間に、クラス内の人間関係づくりに関する活動を計画に入れてみる。	・グループエンカウンター、どのような形で実施しているのか、もう少し具体的な情報がいただけたらと思う。 ・研修を終えてグループエンカウンターをクラスで実施した場合の個々の感想や様子分かる資料があれば、やる前とやった後との心(気持ちのとらえ方)がどう変化したかが見れるといいなあと思った。
		○安全・安心な食生活と、体と心の健康は密接に結びついていることを理解させる。 ○人としていかに在るべきか、いかに生きるべきかについて、主体的に考え、選ぶことができるようにする。 ○適切な支援を受けることができるようにする。	・健康教育講演会(年2回/不登校や反社会的行動の背景にある生活や特性の問題//依存症の問題/食の問題) ・臨床心理士や社会福祉士を講師にした職員研修会の実施(年1回) ・医療、行政、福祉の関係機関との連携強化と生徒支援の輪の拡大(定例会、臨時ケース会議) ・食育実習(家庭科の授業)の実施 ・救急救命講習会(年1回)	PL 保健主任 SL 教育相談主任	3	・SSWに、業務や学校での活用について職員研修を実施してもらい、本校での連携と共働について考える時間を持った。(4月・8月) ・救命救急講習を実施し、生徒だけでなく全職員が実習をした。(5月) ・教育相談部と連携し、連絡協議会を開催した。日田市の生活保護CWなど、対象となる生徒の状況に合わせて関係者が参加し、今後も継続して支援していく確認をした。(6月) ・個別支援を2ケース行っている。安定した家庭生活維持の支援と、就労支援を受けるための支援を継続しており、生徒及び保護者へのメリットは大きく、日田市との連携も十分にできている。(毎月) ・SSWの仲介で、地域の支援事業所の活動を聞く機会を設け、生徒の進路や生活支援について学んだ。(8月) ・薬物乱用防止教室と連動させ、健康教育講演会を実施した。内容は、臨床心理士から「依存症について」の知識を学び、当事者から「薬物の使用とその後の回復について」を語ってもらった。(7月) ・人権教育部と連携し、いのちの講演会を実施した。介護事業所を運営している方から、介護を職業にすることになったいきさつに絡ませて、「じぶん」がどうつづられているのかを考える内容で語ってもらった。(10月) ・食育実習は、授業の枠組みではなく、給食体験公開授業と連動させ、保護者も共に調理して食べる機会を設定した。生徒会とも連携し、レクリエーションも交え、「楽しく食べる」ことを目標に実施できた。(11月)	・年度当初計画したことは、ほぼ実施できている状況にある。 ・今後の課題は ①保健師と連携した地域支援相談事業の周知に関するHRAを実施するか検討協議する。(1月まで) ②SSWとともに、医療機関・行政・福祉と連携できている。生徒を中心に据えた支援ができるよう今後も連携を密にし、いつでも活用できるようにする。 ③食育実習では、生徒会や給食委員会にも協力をしてもらい実施することができた。今後、この経験を生かし、生徒から企画を出せるよう促す。提案があった際には、生徒自身の運営として実施できるよう支援する。 ④年度当初の合同ケース会議(もしくは連絡協議会)の運営の仕方や、記録の取り扱い方等を誰でも継続可能、再利用可能な方向に検討する。	・定時制ならではのテーマであり、特にSSWの配属により行政に働きかける支援方法がさらに広がるのではないかとと思う。 ・「困った、困った」と悩みを抱え込んでいる生徒に「解決するにはどうするか？」を実現出来る取っかかりになるのがSSWの存在であろう。今後の生徒たちとの関わりを大いに期待したい。 ・SSWの先生がいることは定時制にとってもラッキーなことと思う。貧困、虐待等を受けている生徒が多い中で、声にならない声を拾い上げてくれることを期待している。行政に働きかけていることもいいことだと思う。 ・PTA茶話会をやっていることがうれしく思う。高い参加率になることを期待している。 ・不登校傾向の生徒が爽風館高校(通信)に進学し、学習でつまづいていない。定時制の進学を勧めたが、定時制に馴染みがなく、爽風館高校に進学した。定時制の存在を広報することにより、そういう生徒をどんどん取り込んでいって欲しい。